



## 2024 JR総連春闘勝利！ シリーズ④

# 満額回答を強く主張！

## 2024春闘第3回団交

本部は本日、2024年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求に関する申し入れに対する第3回団体交渉を開催しました。今回は、ベア、定期昇給（改訂新人事・賃金制度）、夏季手当などについて議論しました。ベアについて、本部は「物価は高騰し、生活は昨年よりも更に苦しくなり、家計を直撃している。ベア12,000円でも低いくらいだ。今期の第3四半期の決算を見れば、満額回答は可能だ。他の企業では満額回答が相次いでいる。そもそも、運輸業界は他の産業と比べ賃金が低い。このままだと、格差は拡大するばかりだ。昨年のベア1,000円は恥ずかしい。会社は発足当時から『厳しい厳しいと』と言うが、そんなに厳しいならリニアは撤退せよ」と主張しました。会社は「当社の賃金水準は高い。ビジネス客の戻りは厳しい状況だ」などと、賃金抑制のための言い訳に終始しました。

定期昇給について、本部は「会社が提案した『人事・賃金制度の見直し』は、賃金差別を更に拡大するための制度だ。順調に昇格する社員とそうでない社員との格差を付ける制度は誤りだ。苦勞した社員が報われるとは詭弁だ。全ての社員に6,000円の定期昇給を実施するのは当たり前だ」と主張しました。会社は「賃金での差別はやらない。モチベーションを持ってもらうための制度だ」などと、社員間の賃金格差を肯定する回答に終始しました。

夏季手当について本部は、「6期連続の低額支給は我慢の限界だ。自動車業界は7ヶ月出したところもある。好調の決算を見れば可能だ。プラス10万円は、この間の実損回復であり、満額回答は当然だ」と主張しました。会社は、ベアの考えと同様な主張を繰り返すのみで、全ての項目について対立しました。

次回の第4回団体交渉は、3月4日に開催します。